



2023年1月号

発行: 国際ビジネス情報協同組合

明けましておめでとうございます  
西暦 2023 年、令和 5 年  
干支はウサギで飛躍の年、向上の年です  
おかげさまで本誌も 13 年目を迎えました



ここ数年コロナ禍の中で厳しい生活を余儀なくされてきました  
感染拡大が私たちの生活に重く押し掛かり  
廃業や休業などの選択を選ばざるを得なかった方も多くいらっしゃいます  
極端な円安による物価の上昇、仕入れ価格の上昇  
半導体不足など…非常に厳しい1年でした  
令和5年こそはコロナ禍から脱出し、今までの数年間を取り戻せるよう  
大きく飛躍する年でありたいですね  
また私たちの生活が大きく向上する年になってほしいと願います  
組合では入国制限も解け、沢山の実習生が入国しています  
今年も企業様が望む外国人の人材受入れに邁進して参ります

～12月掲載内容～

- \*外国人技能実習生
- \*日 本
- \*日本が誇れること
- \*読んでみて

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp

## 外国人技能実習生

昨年はコロナ禍の中で規制が緩和され外国人材の往来が再開し、長期間待機していた技能実習生たちが来日しました。通常ではあり得ない集中的な業務を余儀なくされ嬉しい悲鳴をあげる一年でしたが、受入れ企業様にもご協力いただき乗り切ることができました。

新年を迎え私たち組合スタッフ一同、兎の如く元気一杯で飛躍の年にしたいものです。

さて、経済界は技能実習や特定技能などを含めた外国人材が注目されています。これは日本国内の人手不足はもちろんですが、我が国も「外国人も日本人と同じように住みやすい日本になれば」という意識が高まってきているからだと考えます。

外国人観光客をはじめ、海外の往来が急速に動き出しています。中国が1月3日からコロナ対策を緩和したことで、更に人やモノ…経済の動きも活発化することでしょう。

### 【外国人材の出身国に変化】

外国人材の出身国も中国やベトナムにとどまらず、ミャンマーやインドネシア、タイやネパール、フィリピンなど多くの国に分布してきました。長年人気国であったベトナムも人材の集まりが鈍くなり、良い人材が減っているとの噂も少なくありません。

それでは次はどの国から受け入れるべきなのか…また、経済が動き出したこともあり様々なことが変化する年でしょう。今年は積極的に講習会の開催や海外の情報発信に力を入れてまいります。

本年も引き続き、宜しくお願い致します。

### 【技能実習制度の廃止はあるのか】

技能実習制度と特定技能制度の両制度が見直されようとしています。

技能実習制度は1993年にスタートし、在留技能実習数は411,972名(2019年12月末時点)で、ベトナムが218,727名でトップです。特定技能制度は2019年からスタートして在留特定技能外国人は15,663名(2020年12月末時点)で、このうち技能実習からの延長で在留しているのは13,344名(85.19%)です。

今般の制度見直しに際して技能実習制度廃止との噂もありますが、当組合は廃止は妥当ではないと考えています。累計で200万人以上の若者たちが日本で学んだことを活かし、今も本国で活躍しています。日本での実習経験は実習生一人一人にとって母国では得ることが出来ない就業の機会であり、人生で大きなキャリアアップとなっています。一方、技能実習生を受入れる日本側の企業も高齢化が進むなか、若者を受入れることによる組織の若返りや経営の活性化等、大きなメリットを感じています。

外国人材が日本で長く受け入れられるためには、両制度が一貫性を持つよう整備が必要です。

例えば、技能実習制度(本国への技術移転が目的)、特定技能制度(人手不足解消が目的)と、それぞれ目的が違う制度であるが故に制度の間で一部の職種が繋がっておらず、技能実習から特定技能へスムーズに進めない場合があります。この場合、帰国を余儀なくされることになり残念な結果になってしまいます。

国際貢献という観点からは本国への技術移転も大切なことですが、日本で活躍してくれる人材を育てるためには両制度が人材育成としての一貫性を持ち、統一した制度になることでしょう。いずれにしても今年是有識者会議の進み方に注目です。

**アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。**

投稿先: [info@ibia.or.jp](mailto:info@ibia.or.jp)

## 日 本

### 【円はどうなる？】



記者会見での黒田日銀総裁

昨年 12 月 20 日、黒田日銀総裁は金融政策の一部を見直し、長期金利の変動幅を±0.25%から±0.5%程度に拡大すると発表しました。総裁は「これは利上げではない」「出口戦略ではない」「将来の長期金利の変動幅の拡大は今のところ考えてない」「景気にプラス」などと発表しました。

これを言葉どおり額面で解釈できるだろうか!?

黒田総裁の発言とは裏腹に金利の実質引上げと受け取っています。それ故に株価も値下がりしたのです。

その原因の一つは、過去における日銀と異次元の金融緩和にあります。金利には本来短期金利(1年未満)と長期金利があり、短期金利は各国の中央銀行の金融政策によって決定されます。長期金利は長期国債のような債券の需給関係(マーケットメカニズム)によって本来決まるものです。ところが 2011 年から始まったいわゆる異次元金融緩和によって、日銀は短期金利をマイナス金利政策で低位安定させるとともに、長期金利も国債の買い入れによってコントロールするようになりました。この手法をイールド・カーブ・コントロールと呼び、市場から国債を買い入れることにより長期金利の上昇を抑えてきたものでした。こうして国内金利を短期・長期金利の両方を日銀がコントロールして来たのです。

ところが、インフレ対策などのために米国などの各国が金利を上げてきました。世界的なインフレを背景とした米欧の金利引き上げをきっかけに、日本でも今年春以降に金利上昇圧力が高まってきましたが、日銀は異次元の金融緩和を続け 2%の物価上昇を目標としてきたのです。景気の回復と賃上げの動きが広がるまで大規模緩和を続けるとしてゼロ金利政策を取ってきましたが、国内金利を抑えようとしても米国を始め海外の金利がさらに上昇してしまいました。

ここでもまだ金利を抑えるために日銀は国債を買わなければならなかった。その上に日銀が日本国内の長期コントロールを出来ないとみたヘッジファンドが空売りを仕掛けてきたのです。このゼロ金利政策の変更を見越した海外ヘッジファンなどによる国債の空売りにより債券売りも膨らむなか、10年債利回りの上限金利の引き上げという「事実上の利上げ」に追い込まれていました。一度沈静化したものの9月から10月に再燃してきたのです。このため、日銀では金利が上昇することを抑えるために国債を大量に買う状況に追い込まれてきました。2022年の国債購入額は6年ぶりに100兆円を超え、9月末時点の国債発行残高に占める日銀の保有割合は50.3%と初めて5割を超えることになったのです。

では今後の展望を含め影響を述べていきます。

まず、日銀の財務状況の悪化への懸念が強まります。4～9 月期決算で保有国債の時価評価が 2013 年の異次元緩和導入後で初めて簿価を下回り含み損に転落しました。日銀は年 2 回の決算時に保有国債の簿価と時価を公表しています。昨年 9 月末時点の簿価は 545 兆 5211 億円、時価は 544 兆 6462 億円で差額の 8749 億円が含み損となります。日銀は国債について満期保有を前提とした会計処理を取っており、時価が下落しても会計上の収益に関係がないとはいえ、市場が不安に考えることも懸念されます。

第 2 に日銀が保有国債から受け取る金利収入が、銀行が日銀に預けている当座預金への利払いを下回って逆ざやに陥るリスクも懸念されます。

第 3 に日銀が財政赤字を事実上穴埋めしている状況で、財政規律の緩みなどの副作用も強まっており、金利が高くなると国が支払う利息が多くなるのです。政府から独立しているはずの金融政策が国債管理政策に実質的に組み込まれているのが現状といえます。

まとめ)

これからどうなるのか注目が必要ですが、金利の上昇は債券、株式、不動産にはマイナス、日銀が保有する国債がマイナス、国債の金利負担が増大し財政赤字が膨らむなどでしょう。いづれにしても黒田総裁は約 10 年間日銀の総裁を務めてきましたが、任期は今年 4 月 8 日まで…この 10 年間の間に安倍内閣を支え異次元の金融政策、巨額の国債購入(黒田バズーカ)、2%の物価上場率達成などを目標として運営して来ましたが、これに基づく弊害を正常化する、いわゆる出口戦略を担うのは誰なのか取りざたされています。次期総裁に噂されているのが雨宮副総裁か中曽前副総裁ですが、さてどのようになるのでしょうか。この黒田総裁、任期途中で勇退!?!との噂もあります。

誰がなろうとも金利は現在より高くすることは筆致で、円高に振れると予想します。

## 【日本の政治】



国会議事堂

日本の政治が変わるのか…変わって欲しいと願うのですが、一向に変わらない…国民は沈没していく日本を眺めるばかりです。参議院選挙も終わり国会が開かれました。この質疑応答を聞いていると政治家、官僚が鼻であしらったような答弁ばかり。質問に対する答えは「総合的判断をして…」などと真っ直ぐ答えようとしません。しかし曲がりながらも旧統一教会問題が取り上げられましたが、答弁に四苦八苦でした。

何故に政治家は問題になると分かっているながら宗教法人や団体にしがみつくのでしょうか!?!

ここで考えてみて下さい。

魂

魂を売る…当選して国会議員になれば税金で公設秘書を 3 人雇え、先生と呼ばれます。ところが落選すれば即座に路頭に迷ってしまいます。人間誰も生存本能があり落選の恐怖を緩和するために魂を売ってでも票が欲しい…。

これでは政治が変わる訳がありません。

選挙に必要なお金は…国会議員には億単位、都道府県議員は千万単位、市議員は百万単位と言われていますが、これは政党、後援者、自腹と色々です。

政治家と官僚…政治家は実務のド素人、官僚が専門家かというド素人、それ故に専門家会議や有識者会議という会議を開催するのです。集まった有識者は勝手なことばかり主張し会議がまとまらず、総花的な折衷案が作られるのです。

これでは日本の行先に不安を感じるのは当たり前ではないでしょうか!?

※総花的…全員に花を持たせるようなやり方

※折衷案…それぞれのいい意見をまとめた案

バラマキ政治…ガソリン補助金、電気料金、ガス料金、コロナで10万円給付など…何でもかんでもバラマキ政策が横行しています。国民の誰もがお金を欲しいのは当たり前、しかし売上補助だ、休業補償だ、支援金だとお金をバラマキ過ぎです。ここで考えて下さい。

選挙前に「10万円の給付金を出すようにする」とある党が言いました。このお金の原資は一体どこなのでしょう!?! 国が借金をしてあなたにくれる10万円です、簡単に言えばあなたが借金して作った10万円、あなたが将来に返さなければいけないお金なのです。老人は死んでいくから返さなくて良い…いえいえ、将来あなたの息子や孫がこの借金を背負って払っていくのです。

一方、選挙に目を向けると年寄の投票率が高いので、年寄り向けに甘い言葉をかけた方が有利です。お金で票を買っているのか、バカにしているのか…とまで思うのは私だけでしょうか!?

本当に必要なことは…重要な最も優先すべき事案が先延ばしにされています。憲法改正であり、少子化対策など国家の存亡に関わる基本的なことです。憲法改正は安倍内閣で実現せず先延ばしにされるばかり…少子化対策をやろうとすれば10年20年単位で実行しなければなりません。

本当にやらなければならないことを先延ばしにして、国民受けの良いことばかりを「バラマキ」という形で実行していますが、一番重要な事を政治家や官僚たちが長期的なものの考え方を示す大事な時なのですが…長期的なスパンで物事を考える機能が国会に必要であり、将来の高齢者に影響が出てくることを若者、高齢者共に自覚しなければなりません。



日本が再び太陽が出る国に…今が貧しくても将来に光が当たるようにするのが政治の世界ではないでしょうか!?! そうすると再び太陽が出るまでのロードマップを作ることが必要です。日本の国がどうあるべきか、どのようにしてこれを達成するのかなど議論すべきです。

第2次安倍内閣において「日本再興戦略」岸田内閣においては「成長戦略」を発表しています。これとて短期的な戦略で、もう一つ踏み込んだ将来の国家像はどうあるべきかを政治の世界に繁栄し、国民が夢見ることが出来る政策を作ってもらいたいものです。

## 日本が誇れること

日本は戦後著しい経済成長を遂げた半面、現在の無責任な風潮や自分翻意の世の中で、私たち日本人の良さを誇れるものがあるだろうか…と考えた時、ウーンとなる一面があるのではないのでしょうか? こんな世の中である眼科医がベトナムで無料診療しているのを目の当たりにして感動しました。その眼科医は服部匡志先生です。ベトナムで無料の白内障網膜硝子体手術など2万件を越す他、若手医師の育成にも心血を注いでおられます。

先般、和歌山ベトナム友誼会(会長: 深山嘉伸氏)の会合があり、アジアのノーベル賞と言われるマグサイサイ賞を11月30日に授与された祝賀会を開催しました。この賞はアジアで大きな社会貢献をした個人・団体に贈られるものです。

**アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。**

**投稿先: info@ibia.or.jp**



和歌山ベトナム友好会からの花束贈呈

服部先生は2003年にベトナムに渡り、多くの人の目を無料で診療してきました。現地では医療スタッフの教育や意識改革が進んでいるものの、器材不足は否めず自腹を切つてまで器具を買い揃え、僅かな月給は生活費にも足らず、定期的に帰国してスポット勤務医として資金を工面する二重生活が続いています。

服部先生が医師になったきっかけは、高校2年の時に父が胃癌で闘病生活を送っていた時にきつい抗がん剤が骨に転移し、その痛みで苦しんでいた時に医師と看護師の話が聞こえてきたのです。「あの82号室のクランケはもう直ぐ死ぬのにうるさい奴だ」と…。この言葉が頭に突き刺さり「患者さんの痛みがわかる医師になる」と決意したのだそうです。以来猛勉強しましたが希望する医大に合格できず、4浪して大阪府立医科大学に合格、医者になり休みの日には大好きなウインドサーフィンを楽しみ、何不自由ない生活を送っていました。



府立医大が主催する眼科学会が京都の国際会館で開催、その学会でベトナム人医師に「ベトナムでは多くの人々が失明している、是非ともベトナムに来て患者を救って欲しい」と頼まれた事がきっかけでした。その時「もっと僕を必要としているところがあり、僕が行けば多くの人々が救えるんだ」と思ったものの、今までの快適な生活を捨てる、しかも家族は反対…と半年間悩んだそうです。

家族は大反対だったために最初は3ヵ月だけという事で家族の許しを得ました。ところが3ヵ月治療し続けても患者さんはまだまだ沢山残っており、このまま自分が帰ってしまったら失明する患者さんが増えてしまうと悩みに悩み、日本に帰国する約束を破ることを頼み込み残ったのです。反対されたとはいえ、家族も方もよくここまで先生を支え、許したことには敬服します。

資金はボランティアなのでお金が出るばかりで、当初は貯金を取り崩していたそうですが当然にして底を尽きます。生活費と現地での活動費を稼ぐために1ヵ月のうち2週間は日本、あとの2週間はベトナムで…という生活が続いているそうです。

こうしていたところ、服部先生が出たテレビ番組を見て奈良にお住まいの方が「先生の番組を見て感動しました。もう私の命は長くなく、子供もいせんので預貯金の5千万円をどうか先生の健康と長く活動が出来るように使って下さい」と言ってポンっと寄付して下さいました。

ベトナムでは日本と風習や物の考え方、問題の解決方法など当初は戸惑ったことと思いますが、先生は大事なことは指導医として来た僕が偉いのではなく「人と人は対等である」という考え方を持って対処したのです。自分(日本)が優れているという意識や変なプライドは邪魔になる、これを克服していったのです。「自分のポジションに拘るより協力しながら道を探す方がいい、だから僕はベトナムで日本と違うところがあっても[日本だったらこうやるのに…]と思うのではなく、僕がベトナムの文化や風習に慣れることが大切であると考え、ベトナム語を覚えたり、ベトナムのやり方

などを学んだりしました。そうするうちに僕自身が回りに徐々に受け入れられるようになった」と話しているのです。

なるほど!! ごもつともです。人を変えるのは言葉だけではなくて自らの信念と行動なのですね…郷に入っては郷に従えです。



手術の様子

こうした本当のボランティア活動を称賛し、色々な賞が授与されました。

2005年 町田外務大臣から謝状

2013年 読売新聞社「読売国際協力賞」、外務大臣表彰

2014年 ベトナム政府より外国人に贈られる最高位の「友好勲章」を叙勲

2015年 日本看護協会とJ&Jより「ヘルシーソサエティ賞」受賞、ベトナムの Quang 国家主席が国賓として来日された折り、両陛下の宮中晩餐会で皇太子殿下(現天皇陛下)から祝辞を受けられました。

上記の他に数えきれないほど賞状、感謝状を授与されています。

筆者は考える)

私も仕事の関係もあり東南アジア各国に行く機会が多くあります。服部先生のような日本人がいることが「日本人としての誇り」であり、心強く嬉しく思います。

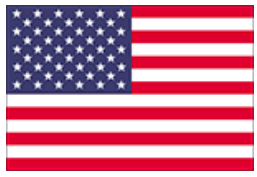
現在、企業に携わっている者は損益計算だけを気にしながら生きていますが、お金を沢山持っているが心貧しい、気が付けば何のための人生だったか分からないような事にならないように…と新年に心を新たにさせられます。

日本国際眼科病院（服部先生のハノイでの病院）	
住所	32 Pho Duc Chinh, Ba Dinh, Ha Noi
ホットライン	+ 84-24-3715-2666
	+ 84-24-3715-3666
	093-222-8180
書名	はっちゃんがベトナムに行く
副書名	自分さがしの旅
出版社	アーティストハウス
著者	服部匡志
価格	1,500 円(税込 1,620 円)

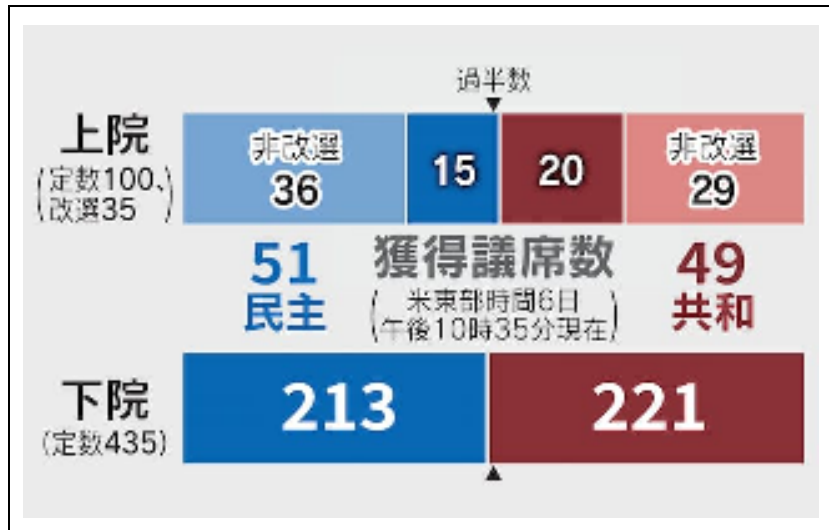
## 各 国

今年注目される各国の状況です。

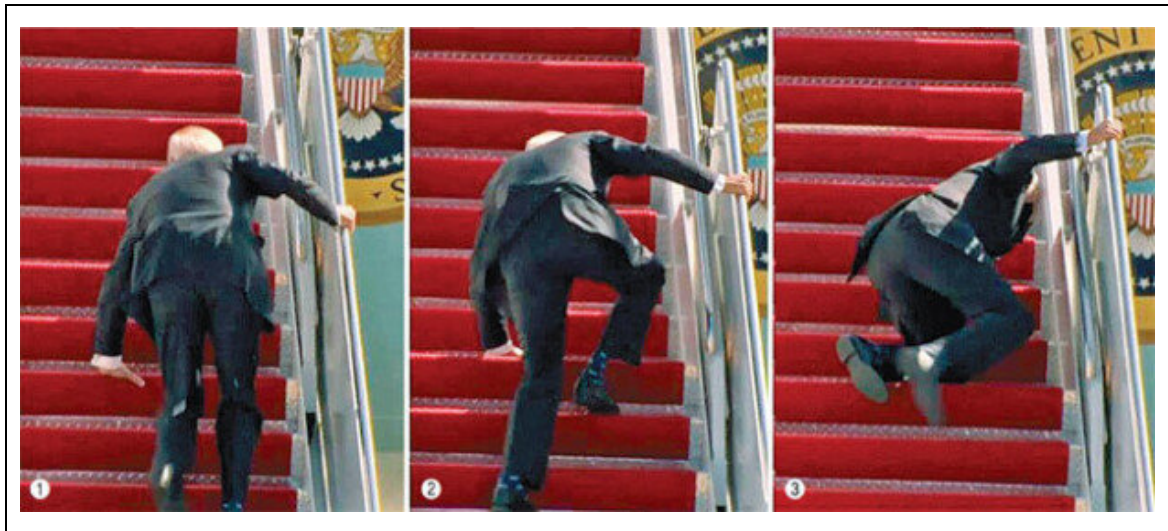
### 【米 国】



米国では下記の通り、上院では民主党 51 議席、共和党 49 議席となり、バイデン大統領の政権運営がやり易くなりました。しかし下院では民主党 213 議席、共和党 221 議席で共和党の協力を願うことになり、議会の運営が注目されます。



バイデン大統領には認知症など健康不安説もあります。



大統領専用機エアフォースワンに乗り込む際にタラップ上で3度もつまずき、よろめく場面がありました。ホワイトハウスは「強風だっただけで大統領の健康には問題はない」と説明しましたが、昨年の大統領選の時から提議されたバイデン氏の健康面の不安や認知症疑惑が続いています。

米国は今インフレの真っ只中、1ドル132円とすると中華そば20ドルは2,640円、信じられますか!?

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp



## 【中国】



習近平独裁政権が発足しましたが、コロナ0政策の失敗から人民がデモなど、今まで考えられなかったことが起きてきました。このコロナ政策で不動産市況の低迷などが響き経済成長率が落ち込み、経済政策が経済の新人に立て直しが出来るのかが注目されます。

年末年始に帰省で農村部へのコロナ感染が懸念されるうえに、北京では火葬までの間の遺体安置所が満杯です。これはコロナによる感染が爆発したのではないかと、また抗原検査キットは売り切れで買えない状況です。実質0コロナ政策から経済重視政策に転換した習政権、今年の舵取りはどのようなのでしょうか!?

中国外相が先月末、王毅国務委員兼外相(69)の外相職を解き、後任として秦剛駐米大使(56)を充てる人事を決定しました。



秦氏は中国外務省で2005年～10年と、11年～14年に報道官を務め、18年に次官、21年に駐米大使に就任しました。敵対的と見なした相手を威嚇する外交姿勢「戦狼外交」の先駆的存在として知られています。狼狽外交とは恐喝外交です。

## 【韓国】



昨年、韓国大統領にユン氏が選ばれましたが、米国との同盟関係を基盤とし北朝鮮に対する抑止力問題、冷え込んだ日韓関係を改善できるかなど多くの問題があります。与党は少数であり法案が通せないなど如何に政権運営をしていくのかが注目されます。

## 【インド】



実質 GDP は2022年の6.8%成長に続き、2023年も米国の景気後退懸念があるにもかかわらず、主要新興国を凌ぐ6%以上の高成長が期待されています。

## 【ベトナム】



今年もペースが落ちるものの経済成長率を6.5%～7%、1人当たりのGDPを4,400ドル、コロナ禍にもかかわらず目覚ましい発展が期待されています。

## 【タイ】



観光に依存することが多いタイ経済、コロナ禍の中で低迷が続き、タイの経常収支は赤字基調が続く中、中銀は景気回復の遅れや金利上昇による景気の悪影響を懸念して慎重姿勢を維持した結果、バーツ相場は調整の動きを強めてきました。足下では米ドル高一服によりバーツ相場は底打ちしています。コロナ禍により観光の低迷から回復へ、農業の順調な成長と投資の拡大と、国内需要の拡大へと経済は拡大するでしょう。

## 【インドネシア】



親日であるインドネシア、経済は堅調な回復傾向が続いています。海外からの直接投資が急増し追い風となっています。

## 【フィリピン】



経済は失速する懸念があります。その理由はインフレや金利高です。因みに昨年度は6%~7%の経済成長であると予想されます。

フィリピンは米国と中国の狭間で難儀をしています。日本が役割を果たすべき時です。

## 【ミャンマー】



極めて親日的なミャンマー、2021年軍事クーデター以降混乱が続き、今年も政治・経済の両方で依然として先行きが見通せません。経済成長も相変わらず大幅なマイナスとなるでしょう。

## 【英国】



G7の国では最も経済成長率が鈍化するでしょう。2022年10月25日にリシ・スナク氏が新たなイギリス首相に就任しました。昨年8月から3ヶ月間に3人が保守党政権で首相の座に就くという異常な事態となっています。また、2016年からの6年間で6人が首相を務めたこととなります。

その原因はEUからの離脱、政府のコロナ政策での混乱、第3にウクライナ制裁に伴うエネルギーの高騰です。

## 【ドイツ】

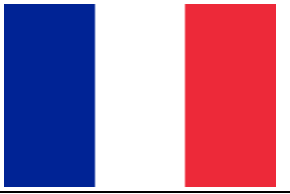


独政府は今年の実質経済成長率はマイナス0.4%と修正して発表しました。ウクライナ危機に伴う資源高で景気回復に急ブレーキがかかった為です。

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp

### 【フランス】



仏の経済成長率は1%位になる予想。やはりエネルギーの高騰が経済の足を引っ張っています。

### 【ロシア】



何と言ってもウクライナ侵攻が経済の足かせであることは間違いありません。戦費が過大にかかり経済は持たない状況が続いています。ガスや原油の輸出でも収入も追いつきません。庶民は制裁で薬の輸入がストップして難儀している反面、富裕層は中東のドバイやトルコでブランド品を買い漁っています。

### 【ウクライナ】



ウクライナ軍はロシア軍に掌握された地域の5割以上を奪還しており、避難民が1,100人以上、人口の約4分の1を超えています。一方、ロシア軍が繰り返すエネルギー関連施設への攻撃で、ウクライナでは市民生活がひっ迫しています。

### 読んでみて

レッドルーレット	
著者	レスモンド・シャム
発行所	株式会社 草思社
寸評	小説より実話だ！ 小説より奇なりとはこのことだ 予断より読んでみることだ 中国でのお話です

アジアに関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp